

2008.09.17(水) 18:00

大阪大学医学部附属病院
外来棟 4階 第1カンファレンス室

第42回未来医療セミナー

肝硬変に対する細胞療法の現状と将来展望

山口大学大学院医学系研究科消化器病態内科学 教授

坂井田 功 先生

国内には、肝炎ウイルスによる慢性肝炎患者が350万人程度いると推定されている。慢性肝炎では肝実質細胞障害を繰り返し、やがて線維化が進行して肝硬変に至りその数は約30万人とされている。慢性肝炎に対してはインターフェロン療法でウイルス排除が可能であるが、治癒率は50%程度しかない。いったん肝硬変に至ると、根治療法は肝移植しかないが深刻なドナー不足である。我々は、肝硬変患者自身の骨髄細胞を用いた肝硬変に対する治療法を行っているが、その基礎研究と臨床研究をご紹介します、問題点と将来展望について議論させて頂きたい。

連絡先：未来医療交流会（大阪大学医学部附属病院未来医療センター内）

Tel:06-6879-6557, Fax:06-6879-6538

E-mail:koryukai@hp-mctr.med.osaka-u.ac.jp

協賛：21世紀 COE 細胞・組織の統合制御にむけた総合拠点形成

- Center for Integrated Cell and Tissue Regulation -